

千葉県誕生150周年記念事業 特別展「樁海干拓350周年記念 干潟八万石物語」

市では「郷土愛からつなぐ未来 ず〜っと大好きなまち旭」を将来都市像に掲げ、地域への愛着を深めてもらう取り組みを推進しています。

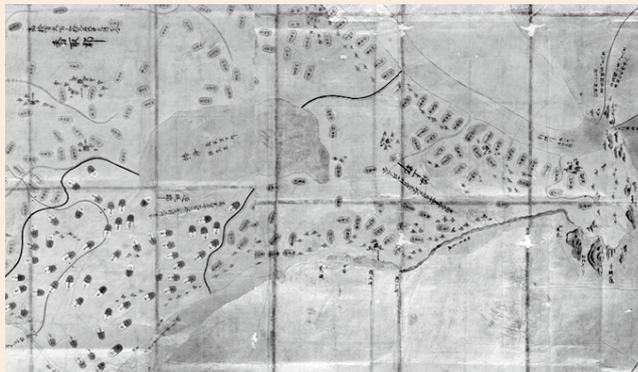
その取り組みの一つとして、大原幽学記念館では、幕末の農村指導者の大原幽学をはじめ、地域の歴史・文化に親しむ事業を実施しており、今年には千葉県誕生150周年と樁海干拓350周年を記念した特別展を開催しています。

樁海の干拓事業

市の中央に広がる広大な水田地帯は、江戸時代の初めごろに、樁海を干拓してできたものです。



樁海の干拓事業でできた干潟八万石



樁海が描かれた地図

樁海は、東西12km、南北6kmにわたり広がっていた湖です。現在残っている江戸時代初期の地図にも、大きな湖が描かれているのが分かります。

樁海の干拓事業が、延宝元(1673)年に惣堀工事を完了して、今年で350年の節目を迎えることから、豊かな実りの大地を作った先人たちの努力と苦労を振り返る特別展「樁海干拓350周年記念 干潟八万石物語」を、令和6年6月16日まで開催します。

干拓の歴史を伝える資料を展示するほか、事業の着手から、さまざまな困難を乗り越えて干潟八万石と呼ばれる一大農業生産地ができるまでの歩みを映像で紹介します。

くわしい内容は、大原幽学記念館(☎68-4933)に問い合わせてください。

広報で振り返る

あの日あのときのあさひ

第15回

1991年(平成3年)12月号

このコーナーでは過去の広報を紹介し、その時代を振り返ります。

今回は広報いいおか平成3年12月号を紹介します。

この号では、いいおかユートピアセンターで2日間にわたり開催された「飯岡町文化祭」を報じています。書道や絵画、写真などの作品展示やステージでの芸能発表のほか、模擬店なども出店する秋の一大イベントでした。表紙は、バザーと農水産物即売会に大勢の人が詰めかけ、品物を買っている様子です。そのほか、青年会による餅つきや鉄道模型の展示も行われ、会場は大盛況となりました。



餅つきや作品展示



表紙